

■中井弘(桜洲)

なかいひろむ
適塾ホヰン・1838=

参謀の官僚。識見や魅力で明治の元勳から頼られ、維新時はじめ、重大な局面ごとに役割を發揮した。

鹿児島城下高見馬場で、薩摩藩士横山詠助の長男に生まれる。幼名休次郎。

阿部正弘首座1845= 7歳 :

..... 1847= 9歳 :

万次郎帰国・1852=14歳 : 家政紊乱し、父休左衛門は遠島、休次郎元服し休之進を名乗る。

ペリー来航・1853=15歳 : 横山家お家取り潰しとなり、**一家離散、諸国流浪に出**、豊後で広瀬淡窓の食客となり、その塾頭園田謙吾から詩文など教えられ、兵庫から大坂、京都へと旅を重ねるうち、

松下村塾・1856=18歳 :

1857=19歳 : 以降維新まで、ほぼ一貫して田中幸助と名乗る。

五ヶ国条約・1858=20歳 : 前年海軍伝習所へ入った**五代友厚を頼って、長崎に出**、坂本竜馬にも引合わせられ、大きな影響を受け、

安政の大獄・1859=21歳 : ついに江戸に出、鮫島雲城の変名で、大橋訥庵ら尊攘儒者と交際して嫌疑かけられ、

桜田門外変・1860=22歳 : 江戸の薩摩藩邸に拘束され、

遣欧使節・1861=23歳 : 鹿児島の谷山の獄に入れられる。

生麦事件・1862=24歳 : この年、寺田屋騒動、生麦事件が起こるが、獄中であって無関係、

8月18日政変・1863=25歳 : 故藩主島津斉彬を照国神社に祭るにあたっての大赦で、鹿児島を出て長崎を経由し京都へ出るが、

禁門の変・1864=26歳 : **京都で志士活動をして幕吏に追われ、長崎の五代を頼り、その紹介で、宇和島藩主伊達宗城の庇護を受けることになり、以降、宇和島藩周旋役として京都で活動。福岡藩主黒田長博にも縁ができる。**

薩摩藩士密航・1865=27歳 : この年、薩摩藩留学生がイギリスに密航する一方、龍馬が小松帯刀の支援で、長崎に亀山社中を設置。

薩長同盟・1866=28歳 : **浪人らを迫及する幕吏から逃れるべく、五代を頼って長崎に出**、龍馬らと交流後、イギリスに密航、大政奉還・1867=29歳 : 傑作詩吟「煙鎖アラビア海」などものして、**帰国。龍馬や後藤象二郎の手足となって奔走、「船中八策」構想に参加、大政奉還建白書作成にも関わって実現に貢献、薩長の有力な志士らに一目置かれるようになる。**

明治維新・1868=30歳 :

***中井家を興して中井弘蔵を名乗る。新政府の外国官判事となり、後藤とともに、京都で参内途上の英公使パークスの応接係として同行途中、パークスが攘夷派浪士に襲われた際に、負傷に屈せず後藤とともに浪士を倒してその危急を救い、恫喝外交官パークスをして感激させ、ビクトリア女王から宝刀を贈られる。**

戊辰戦争終・1869=31歳 : 外国官判事の重職を辞して帰郷し、父を鬼界島より迎えて懸案の横山家再興を成就するとともに、**大久保から託されて、西郷隆盛が逼塞する鹿児島の状況をつぶさに江戸の大久保に伝え、廃藩置県の準備。**

初の日刊新聞1870=32歳 : 上京し、大久保、西郷従道らと協議して、再び帰郷。

廃藩置県・1871=33歳 : 西郷隆盛が率いる御親兵の一軍曹となって上京、西郷の一言で廃藩置県実現。兵部省に入る。

学問のすすめ1872=34歳 : 左院四等議官に任ぜられる。この間、大隈重信の豪邸に薩長の元勳らが集って話に興じたことから、{築地梁山泊}と名をつけただけでなく、話題豊富で元勳らに愛される存在になっており、

明治6年政変 1873=35歳 : ***征韓論抑えるべく、帰国しぶる木戸孝允説得を託されてか、岩倉使節団を追って出航し、パリで合流。大久保利通の送別会を兼ねた鹿児島県人会に出席後、木戸と会、ともにイタリア各地を視察して目的達した後、カモフラージュと褒美兼ねて、ヨーロッパを立ち、アメリカを経由して帰国。**

佐賀の乱・1874=36歳 : **伊藤博文から工部省関連調査を託され、日本公使館書記官として渡英、**

三つの内乱・1876=38歳 : 帰国し、工部省入省。「漫遊記程」を刊行。以後、**草創期の工部省の基礎固めに尽力、**

西南戦争・1877=39歳 : 親交した木戸孝允が死去、

大久保暗殺・1878=40歳 : 尊敬した大久保も暗殺された際には、現場にいち早く駆けつけ、その後も、伊藤、井上、山県ら長州の元勳との交流を続け、

琉球処分・1879=41歳 : 工部権大書記官、井上馨の要請で、外務省御用掛を兼任、不平等条約改正問題に取組む。就職依頼にきた原敬のことを部下から相談されて、郵便報知新聞を紹介、

明治14年政変1881=43歳 :

新体詩抄・1882=44歳 : 工部大書記官。原敬の才能見込んで引抜き、外務省御用掛にする。

岩倉具視没・1883=45歳 : 鹿鳴館開館、その命名者となる。長女貞子が原敬と結婚させ、披露宴には錚々たるメンバーが集まるも、なぜか自らは不在、

秩父事件・1884=46歳 : 華族令制定に、荣誉嫌う性格からか、爵位授からない一方、***暗礁に乗り上げていた琵琶湖疏水工事を実現させることも含めた、伊藤らの画策で滋賀県令に抜擢され、**

内閣発足・1885=47歳 : 地方官制改定で、初代滋賀県知事となり、

国民之友始・1887=49歳 : 明治天皇を滋賀にお迎えし、琵琶湖遊覧の接待役を務めた際、大失態するも、逆に天皇に面白がられ、

帝国憲法発布1889=51歳 :

帝国議会始・1890=52歳 : 妻竹子が死去。明治天皇大津行幸の際、竣工した琵琶湖疎水と新県庁舎を案内、この時もおかしなことで天皇に笑われたらしい。貴族院議員に勅撰されて、**知事を辞し、風流三昧の生活をとっていたところ、**

大津事件・1891=53歳 : 中江兆民が衆議院議員を辞職した際、その潔さを激賞するなど、肝胆照らし合う関係で、

大本教・1892=54歳 :

郡司千島探検1893=55歳 : **翌年の平安遷都千百年大祭のため、伊藤らの説得で、第五代京都府知事に就任、**

日清戦争始・1894=56歳 : ***当日に向けて、女婿原敬に口述して「桜洲山人席上演説」まで用意するが、直前に脳溢血で倒れ、没した。追悼式の発起人は中江兆民。**